

製品名: エストロゲン受容体 α ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21191**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、 -20°C で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:66kD;Observed MW:66kD

抗原情報

遺伝子名	ESR1
別名	ESR1 ESR NR3A1
遺伝子 ID	2099.0
SwissProt ID	P03372
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

背景

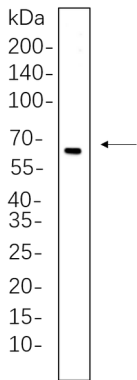
細胞局在: 核。エストロゲン受容体1 (ESR1) ホモサピエンス この遺伝子は、ホルモン結合、DNA 結合、転写活性化に重要な複数の

ドメインからなるリガンド活性化転写因子であるエストロゲン受容体をコードする。このタンパク質は核に局在し、エストロゲン受容体2とホモ二量体またはヘテロ二量体を形成する。エストロゲンとその受容体は性分化と生殖機能に必須であるだけでなく、骨などの他の組織でも役割を果たしている。エストロゲン受容体は、乳がん、子宮内膜がん、骨粗鬆症などの病態にも関与している。プロモーターの選択的利用と選択的スプライシングによって数十種類の転写バリエーションが生じるが、これらのバリエーションの多くは全長が未解明である。[RefSeq 提供、2014年3月]

研究分野

-

画像データ



MCF7 全細胞ライゼートを 10% SDS-PAGE で分離し、膜をエストロゲン受容体 α ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でプロットした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。